

深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2012年9月10日

今月のトピックス 「消費税増税による影響は? パート2」

2014年4月に3%引き上げ8%へ、2015年10月に2%引き上げ10%へという消費税の引き上げが決定した。消費税増税法には、景気条項(2011年~2020年度の平均で、名目3%程度、実質2%程度という経済成長率を求める)が明記されているが、景気条項よりも増税を優先させるだろう。「消費税増税による影響は? パート2」では、消費税導入・税率引き上げ後のマーケットの動きを俯瞰することにしよう。

消費税の引き上げは、わが国の財政を健全化させるための政策(首相も散々述べている)なので、為替市場は円高/外貨安が加速しそうだが、過去の消費税引き上げでは逆に円安/外貨高になっている。89年4月に消費税が導入された時は、同年3月末の円/米ドルの東京直物市場の終値132円55銭が、90年4月の160円35銭まで約21%の円安/米ドル高。消費税が3%から5%に引き上げられた97年4月には、同年3月末の123円96銭が、98年8月の147円64銭まで約19%の円安/米ドル高となっている。平均すると約20%もの円安/米ドル高となっているので、馬鹿にできない変動率と言えるのではないか。仮に1米ドル=80円とすれば、96円前後までの円安ということになる。

一方、わが国の株式はどうなったのかといえば、89年3月末の日経平均株価は3万2838円68銭が、同年12月29日の3万8957円44銭まで約18.6%の上昇。消費税引き上げの97年3月末の日経平均株価は1万8003円40銭が、同年6月26日2万0910円79銭まで約16.1%の上昇となっている。平均すると約17.4%の上昇なので、為替相場同様かなりの変動率と言える。仮に日経平均株価を9000円とすれば、1万0566円前後まで上昇することになる。

私たちの生活には税負担の増加、経済には駆け込み需要の反動による景気の低迷が予想されるが、為替や株式などのマーケットに関しては、消費税増税は意外にもフォローの風になるのかもしれない。歴史は繰り返す(柳の下に3匹目のどじょうがいる)と仮定すれば、14年4月、15年10月の消費税の引き上げ時にも円安、株価上昇になる可能性は高いと言えるのではないか。消費税増税で一矢を報いたいなら、外貨建て商品、日本株へ投資するのがいいかもしれない。ただし、欲をかくのは禁物。ほどほどの儲け=増税分をカバーできるプラスアルファ程度にしておかないと、大きな損を被る可能性も否定できないことを記しておこう。なぜなら為替、株価ともに、上昇した以上に大幅な円高、株価安に結果としてなっているのですから……。